

〔I〕 次の問題文を読み、後の問いに答えなさい。 1 13 の解答は解答欄にマークしなさい。

近現代日本の「家庭」とは、明治維新以降の近代化にともなう社会変動のなかで、新たな生活基盤を
探るための言葉、概念だった。そしてそれは、近代化によって生じた「近代家族」と連動してあらわれ
たものだった。

そして本書で打ち出したいのは、近現代日本の「家庭」論は、「家庭はどのようにあるべきか」といつ
たような道徳論、人生論にとどまらず、社会構想に関する議論をしばしばともなっていたことである。

「家庭」という言葉が広まりはじめたのは、明治期だった。江戸時代の人びとは、基本的には生まれ
た「家」を通して、身分制社会のなかに組み込まれていた。そこでは、生まれた「家」によって、個人
のおおよその人生は決まった。

しかし明治維新によってこのシステムがハウカイすると、人びとは「家」や共同体から解放される
度合いが増していく。ここで、「個人」と家族、そして社会や国家をどのように新たに結びつけるかとい
うことが問題となった。

「家庭」は、こうした状況のなかで使われるようになった言葉である。それは、近代化によって台頭
した「近代家族」を表現する言葉でもあった。

「家」は日々の生活を行う場であるだけでなく、家業を通した経済活動を行う場所でもあった。前近
代社会の農家などでは、女性や子ども、高齢者も含めて一家総出で働くことが基本だった。そして「家」
は、家長を中心とした身分秩序が内部にあっただけでなく、本家と分家など、共同体の序列にも埋め込
まれていた。

対して「近代家族」は、「家」のような家業をもたない。そこでは、男性が近代化、工業化によって
生じた職場で賃金を獲得し、女性が家事、育児に専念するという性別役割分業が支配的となった。女性
には愛情や「母性」が期待され、子どもは村などの共同体単位ではなく、家族と学校教育によって育て
られるとみなされるようになる。

こうした家族像は「家族」という言葉では表現しきれなかった。もちろん「家族」という言葉もまた、
近代化のなかで意味を変化させている。しかし「家族」は、「家」と「近代家族」の双方の家族像を示
す言葉として使われた。

一九五六（昭和三一）年に自民党が出した「憲法改正の問題点」をはじめ、近現代日本の家族論をみ
ると、「家族（家庭）」というように、「家族」と「家庭」という言葉を併記している場面にしばしば出
くわす。これは、「家庭」が「家族」と近い意味を持ちながらも、それとは異なるものを表現しようと
する言葉であったことを示している。とくに戦前においては「家族制度」という言葉が「家」を示すも
のとして流通しており、「家族」という言葉には、「家」に近いニュアンスが含まれていた。

「家庭」はこうしたなかで、「家」や「家族」という語では表現しきれない a を託す言葉になった。
「家」や共同体にコウソクされない恋愛、外界では得がたい安らぎ、理想的な子育てや相互フジョといっ

たことへの期待が、「家庭」という言葉と強く結びついた。これらは近代化という社会変動のなかで、
安定した生活基盤を築くために人びとが求めたことでもあった。

そして「家庭」を論じることば、各々が思い描く「家庭」を実現するための社会構想を論じることば
もなった。とくに明治期や戦後初期など、来たるべき社会像がまだ未知数だった時代では、「家庭」は
b の拠点としても位置づけられた。そこでは理想的な「個人」の生き方、理想的な「家庭」、理想
的な社会を確立することは一体のものだった。

しかし実態としての「近代家族」が普及していくと、「家庭」はむしろ既成秩序の一部としてのニエ
アンスも強めていった。大正期に国家が新中間層の生活を捕捉しようとし、また高度経済成長期に保守
系政治家が「家」から「家庭」を強調するようになったのはそのあらわれである。「家庭」は社会や国
家の基盤として位置づけられ、標準的な「家庭」に沿わない人びとにとっては、抑圧的にも映るよう
になる。

また保守系論者が「家庭」という言葉を用いる場合には、三世代同居や祖先との結びつきなど、しば
しば「X」のようなシキサイをまとっていることがある。とはいえそうした場合でも、「Y」
の核になっているのは、性別役割分業や母親による家庭教育、家族の愛情など、近代以降に目立つよう
になった現象であることが多い。「Y」という言葉は、「Z」と分かちがたく結びついている。

だが現在では、「近代家族」を営むことが困難な人びとが増えた。工業化社会からポスト工業化社会
への移行が進み、「近代家族」を支えてきた社会関係——地域社会の安定や、男性稼ぎ手モデルを成立
させていた社会経済的条件がくずれてきたからである。

こうした状況で「家庭」は、実態から遊離したイデオロギー性の強い言葉になってきている。従来の
ような「家庭」を営みたくてもできない人びと、従来の「家庭」とは異なる生活を実現したい人びとが
増えるなかで、特定の「家庭」像のみがひとり歩きしているというのが現状ではないだろうか。

（本多真隆『「家庭」の誕生——理想と現実の歴史を追う』一部省略・表記改変）

問一 ——線部（ア～エ）と同じ漢字を用いるものを、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- | | |
|--|---|
| <p>1 ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ① テレビでホウエイする。 ② 敵をホウイする。 ③ 崖がホウラクする。 ④ テンイムホウ。 | <p>2 イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 本の返却をサイソクする。 ② ヤクソクを守る。 ③ ムビョウソクサイ。 ④ 景気がシソクする。 |
| <p>3 ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 子どもをフヨウする。 ② 財産をフヨする。 ③ フサイを抱える。 ④ フソクの事態。 | <p>4 エ</p> <ul style="list-style-type: none"> ① サイリョウに住せる。 ② ショサイにこもる。 ③ セイサイを放つ。 ④ サイルイスプレー。 |

問二 — 線部 (A・B) の語句の意味として最も適切なものを、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- 5 A ① 微妙な意味 ② 奇抜な内容 ③ 曖昧な様子 ④ 明確な思念
6 B ① 拡張する ② 逸脱する ③ 反対する ④ 後続する

問三 — 線部 I 「流通」と熟語の構成のしかたが同じものを、次の中から一つ選びなさい。

- 7 ① 進退 ② 救助 ③ 登山 ④ 腹痛

問四 [] (a・b) に入る語を、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- 8 a ① 使命 ② 信頼 ③ 責任 ④ 願望
9 b ① 社会改革 ② 経済発展 ③ 安心安全 ④ 復古主義

問五 [] (X・Y・Z) に入る語の組み合わせを、次の中から一つ選びなさい。

- 10 ① X 近代家族 — Y 家庭 — Z 家 ② X 家 — Y 家庭 — Z 近代家族
③ X 近代家族 — Y 家 — Z 家庭 ④ X 家 — Y 近代家族 — Z 家庭

問六 — 線部 II 「家庭」は、実態から遊離したイデオロギー性の強い言葉になってきている」の説
明として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

- 11 ① 「家庭」という言葉が、実際の社会や文化の中で、個々の価値観と結びつき、より具
体的な意味をもつものとして変化してきたということ。
② 「家庭」という言葉が、個々の価値観に基づく具体的な意味から離れ、経済的な意味
合いをもつものへと変わってきたということ。
③ 「家庭」という言葉が、現実の状況に呼応して構築された概念と結びつき、特定の個
人に影響を与えてきたということ。
④ 「家庭」という言葉が、現実の状況ではなく、社会や文化の中で構築された概念を反
映するようになってきたということ。

問七 問題文の内容に合致するものを、次の中から二つ選びなさい。

- 12 ① 「家」とは、明治期に広がったシステムであり、これによって個人のおおよその生き
方が方向づけられた。
② 「近代家族」は、工業化が進む社会経済を支える一方、社会関係——地域社会の安定
をくずすことにつながった。
③ 「家庭」は、一部の政治家によって社会の根幹とみなされたが、人によっては愚苦し
いものとして認識された。
④ 「家庭」とは、理想を追求する自己表現の場であり、社会から断絶された家族像を意
味するものである。
⑤ 「家」は、家業を通した経済的活動を行う生活の場であり、身分秩序がその内部にも
埋め込まれていた。
⑥ 「近代家族」とは、家業を中心としながらも、男性は外、女性は家で働く性別役割分
業が進んだ形態である。

〔II〕 次の問題文を読み、後の問いに答えなさい。 [14] [26] の解答は解答欄にマークしなさい。

「青年」とか「少女」とかは比較的新しい概念だと言われる。労働力が足りない昔は、「子ども」が生
産や生殖ができるようになればすぐ「大人」だったのが、経済的に余裕ができたため「成人」を遅らせ、
「子ども」でも「大人」でもないユウヨク期間を作ったというのだ。「青年」期はまだ「大人」としての自
己像が不安定であるため、「アイデンティティ・クライシス」(自分が何者か定まらない不安)が起きや
すいとも言われる。一九六〇年代後半の先進国(欧米と日本)では「若者の反乱」とか「学生の反乱」
と呼ばれる反体制活動が盛んだったが、それはちやうどアメリカで「アイデンティティ」を論ずる社会
心理学が盛んとなり、日本にもその言葉が輸入され始めたころだった(これに当たる日本語がないので
当初は「自己の存在証明」と訳されたりした)。もはや「子ども」ではないのに「社会の一員」として
のポジションを得ていない「若者」たちが「団塊」として大量に存在することが、このような社会問題
を引き起こしていたのかもしれない。けれども七〇年代初め、彼らは就職して「社会人」になると、与
えられた職務を果たすため猛烈に働き、社会の発展に貢献した。同時に、若者の反乱は鎮静化した。

その団塊の世代は今や「老人」となった。日々体力と気力の衰えを実感し、記憶力や判断力の衰えか
ら来る誤りを(本人は自覚しなくとも)指摘され、自営業や自由業などを除きほぼ退職して「社会の一
員」としてのアイデンティティを失い、しかしながらまだ十数年の平均余命を高齢者ないし後期高齢者
として過ごすなければならない。この老人たちは自身の「老い」をどのように捉えるかという問題に直
面している。それは二度目のアイデンティティ・クライシスを迎えていると言ってもよい。その何百万
かの老人はなかなか「老い」を自覚せず、あるいは自覚しても伝統的な「老い」の形を引き受けようと
はしないかもしれない。彼らの愚^Aあがきは、ひょっとしたら「老い」についての視点を変え、「老い」
の文化を変えるかもしれない。

かつて「還暦」を迎えた老人は赤いちやんちゃんこを着せられた。それは人生のシウウカイ^イを完走し
たのでいったん赤子に帰って再出発することを意味した。つまり本来の人生は終了して余生という別の
人生に入ることである。しかし五五歳であつた定年は、六〇歳から六五歳へ、そして今七〇歳に
まで延長されつつある。それは「還暦」を越えた者に、なお現役¹の社会人に留まることを要求している。
このとき人は「老人」と見られつつ「現役」として扱われる。「老人」という分類が、もともとは「現
役」を終えたものという意味であつたとすれば、これは矛盾している。ただ日本では昔から老人が(老
害と陰口を叩^たかれつつも)現役に居すわることは珍しくないで、この事態はさほど混乱をきたさない
かもしれない。

医学等の進歩によって、いまでは還暦を過ぎてもなお現役として働く老人が少なくない。だからこそ
定年が延長されたのだが、これは言い換えれば、老人の年齢になっても身体的知的に大きな衰退がみら
れないのがふつうになったということである。昔から老人は自分が「老人」であることを自覚しない傾
向があつたのだから、現代ではなおさらである。もちろん体力や記憶力などが昔のようではないことは
自覚しているが、まだ仕事をするには差^Bし支えないと思つている。「若い者には負けない」とさえ思つ
ている。つまり、自分は [X] には「老人」だが、[Y] には「老人」ではないと思つている。けれ
ども退職すると所属機関や職業によって与えられていた「社会人」時代のアイデンティティは失われる。

年齢的に再就職は難しい。ここに現代の老人の課題がある。彼らは自分で自分の生きている意味を再発見しなければならない。

年金等によって一応の生活が保証され、かつ社会人(社会組織の正規メンバー)としては受け入れられない時、老人はいささか衰退した身体と蓄積したネンコウとをもつて余生を送ることになる。これには二つの形がある。一つは非正規の形でなお社会と関わることである。たとえばボランティアの形で社会貢献がある。知識と経験を生かして環境問題に取り組んだり、忙しい社会人がやりたがらない町会の運営を引き受けたり。発展途上国に移住し、技術移転を行って経済発展を助けようという人もいる。社会人であったところのようなハウシユウは得られないだろうが、確実に自分が社会の役に立っているという実感があるだろう。しかしそこには現役の社会人を支配する実用性・功利性という原理とは別の規範がある。そして初めて、社会人であった頃の自分がいかに狭い世界で思考し、行動していたかを知らう。つまり社会の周縁に立ち、正規の社会人集団の外部に立つことによつて、やつと社会を、そして社会人というものを外部の目で見ることができるのである。それは「余生」を送る者の特権でもある。

もう一つの形はきれいなつぱり社会の外部に出てしまうことである。それは社会的には「Z」となつて、自分ひとりの「趣味」に生きることである。つまり、社会の役に立つことに自分の存在意義を見つけるのではなく、「生活文化」という非実用的領域に自己実現の達成や自分の居場所を見出すことである。生産や繁殖が人類の存続と発展という目的に役立つ行為だとすれば、生活文化は役に立たない。ただ、人生の豊かさを享受する方法の集積にすぎない。このような実用性のない、つまり何かの目的的手段としてではなく、ただそれをするのが面白いからする行為を「遊び」という。江戸時代に豊かな町人に流行した「遊芸」もこれである。「芸術」も「遊芸」に含まれる。いまなら『ポケモンGO』も含まれるだろう。だから社会の外部で生きるとは、簡単に言えば「遊び」に徹することである。

数百万の老人たちが「遊び」に、とりわけ文化的成果である「遊芸」に自己実現を見出す時、いったい何がおこるだろう。それがどのようなものになるかはまだわからないが、そこには新しい「老い」の定義と「余生」の意味の変容があるだろう。

(尾ヶ崎彬「日本における「老い」と「踊り」」一部省略・表記改変)

問一 — 線部(A・E)と同じ漢字を用いるものを、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- | | |
|--|--|
| <div data-bbox="252 1507 332 1549">14</div> <div data-bbox="350 1516 391 1537">ア</div> <div data-bbox="391 1432 736 1621"><ul style="list-style-type: none">① 受賞のエイヨに浴する。② 在庫のザンヨがない。③ 資金をヨタクする。④ ヨソウ外の展開。</div> | <div data-bbox="807 1507 887 1549">15</div> <div data-bbox="905 1516 946 1537">イ</div> <div data-bbox="946 1432 1308 1621"><ul style="list-style-type: none">① 前言をテツカイする。② カイリツを守る。③ ダンカイを踏む。④ カイチュウ時計を手にする。</div> |
| <div data-bbox="252 1759 332 1801">16</div> <div data-bbox="350 1768 391 1789">ウ</div> <div data-bbox="391 1684 742 1873"><ul style="list-style-type: none">① コウミョウな細工。② 一将コウなりて万骨枯る。③ コウゲキに転ずる。④ コウリツよく作業する。</div> | <div data-bbox="807 1759 887 1801">17</div> <div data-bbox="905 1768 946 1789">エ</div> <div data-bbox="946 1684 1359 1873"><ul style="list-style-type: none">① 議論のオウシユウをする。② 事態のシユウシユウがつかない。③ 皆に広くシユウチする。④ ホンシユウに台風が接近する。</div> |

問二 — 線部(A・B)の語句の意味として最も適切なものを、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- | | |
|--|--|
| <div data-bbox="1721 199 1801 241">18</div> <div data-bbox="1819 207 1860 228">A</div> <div data-bbox="1860 199 2249 283"><ul style="list-style-type: none">① 一か八かの賭けをすること③ 他人に八つ当たりをすること</div> | <div data-bbox="2320 199 2742 283"><ul style="list-style-type: none">② 無駄にみえることを試みること④ 焦りから深刻な事態を招くこと</div> |
| <div data-bbox="1721 304 1801 346">19</div> <div data-bbox="1819 312 1860 333">B</div> <div data-bbox="1860 304 2169 384"><ul style="list-style-type: none">① 連携を乱すことはない③ 不満を抱くことはない</div> | <div data-bbox="2320 304 2742 384"><ul style="list-style-type: none">② やましいところはない④ 都合が悪いことはない</div> |

問三 — 線部I「現役」の「役」と同じ読み方の用例を、次の中から一つ選びなさい。

- | | |
|--|--|
| <div data-bbox="1721 487 1801 529">20</div> <div data-bbox="1819 495 1860 516">①</div> <div data-bbox="1860 487 2027 573"><ul style="list-style-type: none">役目を果たす戦役に従事する</div> | <div data-bbox="2320 495 2567 573"><ul style="list-style-type: none">② 役得にありつく④ 配役を発表する</div> |
|--|--|

問四 — (X・Y)に入る語の組み合わせを、次の中から一つ選びなさい。

- | | |
|---|--|
| <div data-bbox="1721 676 1801 718">21</div> <div data-bbox="1819 684 1860 705">①</div> <div data-bbox="1860 676 2148 762"><ul style="list-style-type: none">X 心情的 — Y 文化的X 身体的 — Y 年齢的</div> | <div data-bbox="2320 684 2665 762"><ul style="list-style-type: none">② X 制度的 — Y 実質的④ X 個人的 — Y 社会的</div> |
|---|--|

問五 — 線部II「自分で自分の生きている意味を再発見しなければならない」の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

- | |
|---|
| <div data-bbox="1721 913 1801 955">22</div> <div data-bbox="1819 921 1860 942">①</div> <div data-bbox="1860 913 2801 1100"><ul style="list-style-type: none">それまでの自己を見直し、変容していく社会に順応しなければならないということ。後の世代に頼らず、「余生」を過ごすための手段を獲得する必要があるということ。過去の経験を元に、新たに社会参画をする準備をしなければならないということ。今までの自己認識を改め、「余生」を送る意味を問い直す必要が生じるということ。</div> |
|---|

問六 — 線部III「それ」の指す内容として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

- | |
|---|
| <div data-bbox="1721 1205 1801 1247">23</div> <div data-bbox="1819 1213 1860 1234">①</div> <div data-bbox="1860 1205 2828 1390"><ul style="list-style-type: none">実用性や功利性とは別の規範を広めることで、社会を変えることができるということ。社会の外部に出ることで、自分の興味がある分野に没頭できるようになるということ。今まで自分が属していた社会を、異なった観点から捉えられるようになるということ。今の自分を見つめ直すために、社会の周縁に立つことができるようになるということ。</div> |
|---|

問七 — (Z)に入る語を、次の中から一つ選びなさい。

- | |
|---|
| <div data-bbox="1721 1493 1801 1535">24</div> <div data-bbox="1819 1501 1860 1522">①</div> <div data-bbox="1860 1493 2641 1533"><ul style="list-style-type: none">後見人無頼案内係隠居</div> |
|---|

問八 — 問題文の内容に合致するものを、次の中から二つ選びなさい。

- | | |
|--|---|
| <div data-bbox="1721 1635 1801 1677">25</div> <div data-bbox="1819 1644 1860 1665">①</div> <div data-bbox="1860 1635 2786 1675"><ul style="list-style-type: none">「少女」は、労働力に余裕がない時代にはまだ見られない概念だったとされている。</div> | <div data-bbox="1721 1686 1801 1728">26</div> <div data-bbox="1819 1694 1860 1715">②</div> <div data-bbox="1860 1686 2828 1919"><ul style="list-style-type: none">「遊び」に徹することこそが、非正規の形で社会と関わる「老人」の本懐である。「アイデンティティ」という言葉は、老人たちの心理を探ることから生まれた。数百万の「団塊」の世代の老人たちは、「遊び」を通じて社会を変容しつつある。『ポケモンGO』などの「遊び」は、生活文化を実用を生かすための手段である。老人たちが「遊芸」に自己実現を見出すことで、「老い」の意味が変わる可能性がある。</div> |
|--|---|

〔III〕

次の問題文を読み、後の問いに答えなさい。 27 36 の解答は解答欄にマークしなさい。

享保^{注1}・元文の頃、柳瀬美仲といふ歌よみありけり。いささか復古の志もありけるとぞ。ある時の歌に
初瀬路やはつ音きかまく尋ねてもまだこもりくの山ほととぎす

といふ歌をよみて、おのれも「いみじうよみ得たり」と思ひて、日頃したしう物学^Aび聞こえまゐらする
なにがし大納言殿の御もとに参りて、この歌見せ奉るに、いとめでくつがへらせ給ひて、「今の世にか
くばかりの歌よみ出^いべき人またあるべしとも覺えず。かのいにしへの待宵^{まき}侍徒、物かはの藏人、伏柴の
加賀、沖石讀^{おき}岐などがためしにならひて、今より隠口^{おくりぐち}美仲とあきなつくとも、誰かは点^ちつかん。」とは
め給はせしかば、美仲身に余るうれしさに、帰るすなはち、しれる限りの人々にも、しかじかのよし語
り聞かせてほこりけるを、稲荷山の神職^{しんしやく}羽倉東満^{はぐらとうまん}このよしを聞きて、 事と思ひつつ、やがて大
納言殿の御もとに参りて、雑掌^{ざしやう}なにがしとかいへるにあふて申しけるやうは、「伝へうけたまはるに、
このころ美仲が歌に、まだこもりくのといふ歌よみて、いたく殿の御褒詞^{ごほうし}に預り侍りしよし。誠さる事
や侍りし。おのれもものの心しりそめし程より、歌の事に深く心をよせ侍るが、こもりくといふ詞は、
古く『古事記』『日本紀』『万葉集』にわたりて、皆初瀬の枕詞^{まくらことば}にて侍るを、その枕詞をかく秀句^{しゅうく}にいひ
かくるのみならず、五言にのみいふべき詞を、上にまだの二言^Cをそへて七言の句に用ひ侍る事、古歌に
絶てためしなき事に侍り。いかでこの歌をほめさせ給ひて、おほけなく隠口美仲などいふあきなつけ、
とはのたまはせしならん。こはさだめて、辻太路^{つじたろ}の浮きたる語り言にこそは侍らめ。殿ののたまはせし
ならば、歌の事地に落ちたりとや申し侍らん。いと歌かはしくこそ。この疑ひうけたまはり、はるけた
くて、ことさらに語で来侍りしなり。」と申しければ、雑掌も答へにさしつまりて、「いかでさる事侍ら
ん。そは美仲が弟子共などが、おのが師の歌をかがやかさんとて、殿の御名をかりて、浮きたる事をか
まへ出たるにこそ侍りけめ。」とて、そこそこにしておくつ方へはひ入りて、又と出ざりければ、東満
もをかしさをこらへて家に帰りけるとぞ。

この美仲が墓、今まのあたり江戸下谷池端^{注4}なる教証寺といふにありて、正面に隠口先生美仲甫之墓と
いふ九字^{注5}を八分^{注6}にて記し、側面にはつせ路やの歌、又かたつかたに碑文を系りつけたり。碑文の説本文
と違へるは、かの東満のなじりとがめたる後は、互相^{注6}の許し給へる由はかくして、世人のつけたるあき
なのやうにいひかへしものなるべし。 (『泊瀬雑話』)

- 注 1 一七一六～一七四一。 2 以下沖石讀岐まで、詠歌の一部があきなになった歌人たち。
3 荷田春満。京都伏見稲荷の社家出身で国学者。 4 現在の台東区池之端。
5 書体の一つ。 6 大納言の別称。

問一 ― 線部 (ア～ウ) の語句の意味として最も適切なものを、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- 27 ア ① 深く考えもしないで ② 相手の機嫌を取って
③ 思いもよらない ④ 身の程もわきまえず

- 28 イ ① 道を究めようとして ② 思いを晴らそうとして
③ 人を払いのけて ④ 無礼を承知で
29 ウ ① 繰り返し言った ② 別の説明をした
③ 他人をやりこめた ④ 根拠のない説を出した

問二 ― 線部 (A～C) の口語訳として最も適切なものを、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- 30 A ① 非常に意外そうなお願をなさつて ② とても丁寧にご批評なさつて
③ 大いにお褒めあそばして ④ 過剰に大騒ぎあそばして
31 B ① 誰も適切な評価ができないであろう ② おそらく誰もが気が付くであろう
③ いったい誰が非難するであろう ④ 誰かがきつと広めてくれるであろう
32 C ① 前例のない意味で用いる ② 滑稽さを強調してよみこむ
③ 意味を取り違えて用いる ④ しやれ言葉のようによみこむ

問三 ― 線部 I 「聞こえまゐらする」と敬意の種類が同じものを、次の中から一つ選びなさい。

- 33 ① 存じ奉る ② 聞こし召す ③ 仰せ給ふ ④ 見そなはす

問四 に入る語として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

- 34 ① をこがましき ② いまめかしき
③ こころにくき ④ うしろめたき

問五 問題文の内容と合致するものを、次の中から一つ選びなさい。

- 35 ① 雑掌は大納言に非が及ばないようにと配慮し、東満に対し取り繕った返答をした。
② 美仲は大納言の御褒詞に感激したが、弟子達に命じて碑文にはその点を省かせた。
③ 美仲の弟子達は自らの師匠を顕彰しようと思い、虚偽の話を美談として創作した。
④ 大納言は待宵侍徒達の例を挙げ、和歌が上達すれば出世できると美仲を励ました。

問六 『万葉集』と最も関連の深い語句を、次の中から一つ選びなさい。

- 36 ① 六歌仙 ② 本歌取り ③ 歌合 ④ 防人歌